

平成21年4月30日現在

研究種目:基盤研究(A)

研究期間:2006~2010

課題番号:18202028

研究課題名(和文) フィールドワークの理論と手法に関する総合調査:海外学術調査の展開をとおして

研究課題名(英文) The Synthetic Studies on the Theory and Method of Fieldwork : On the Basis of the Development of Overseas Scientific Research

研究代表者

真島 一郎(MAJIMA ICHIRO)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号 10251563

研究分野:文化人類学

科研費の分科・細目:文化人類学・民族学

キーワード:連絡調整、地域、情報提供、海外学術調査、フィールドサイエンス、フィールドワーク

1. 研究計画の概要

(1) 人文・社会・自然科学の諸分野で科学研究費基盤研究・海外学術調査に従事する研究組織の連携ネットワークを作り、その中心組織としての役割を担い、日本におけるフィールドワーク(臨地調査)にもとづく諸科学、すなわちフィールドサイエンスの可能性の広がりを提示し、その確立をめざす。

(2) 人文社会科学におけるフィールドサイエンスの範例としての文化人類学が展開してきた手法と理論の特徴を、自然科学を含む他の学問領域とのそれと比較しつつ検討し、これら諸分野においてフィールドワークのしめる意義を客観的に同定する。

2. 研究の進捗状況

(1) 総括班フォーラムの年次開催: 海外調査を計画している全国の研究者に、関係地域やフィールド調査に関する最新の情報、および超域的な研究交流の場を提供すべく、「総括班フォーラム」を年一回開催してきた。ここでは、日本学術振興会担当者を迎えた「科研費の執行」に関する全体会議とともに、全世界を七つの圏域に区分した地域別分科会を会場別に同時開催し、情報交換の場に活用した。

(2) 連続ワークショップ: 「フィールドサイエンスと超域的ネットワーク」を大テーマにかかげた連続ワークショップを、フォーラムと同日の開催日程で毎年企画した。各回に特別テーマをかかげ、「フィールドワークと理論構築」(2006年度)、「海外学術調査データベース」(2007年度)、「フィールドサイエンスと超域的ネットワーク」(2008年度)

を主題とする講演と総合討論によって、本研究課題の理論的方向性を追究してきた。

(3) 各種研究会の開催と学術データベースの構築: 共同研究としての持続性・発展性を高めるため、年数回の研究分担者会議のほか、個別のフィールド方法論を主題として研究ネットワークの拡張をはかる「フィールドネットワーク研究会」や「フィールドサイエンス・コロキウム」を随時開催するとともに、日本人による海外学術調査の歴史を俯瞰するための「国際学術研究調査関係研究者データベース」を構築し、ウェブ上で公開した。

(4) 臨地調査における文理共存の可能性にむけた試み: 本研究課題による海外調査の内容を、従来の事情調査型から、フィールドサイエンスの構築可能性を積極的に展望する学術創生的調査型に転換しながら、毎年度の重点調査対象地域を対象とした海外調査を試みてきた。また、若手研究者を中心に、文理共存の臨地調査像を模索するネットワークをウェブ上に構築する試みが提案され、「FIELDNET・ウェブ構築委員会」が昨年度より組織された。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している: 「研究の進捗状況」として上に記した諸活動のうち、本研究課題の研究計画調書作成時点では具体的な研究内容や研究方法を提示しえなかったもののうち、とりわけ(3)と(4)に属する研究ネットワーク構築関連の種々の試みは、以後の共同研究における討議をへて、初めて明示的な姿をとりえた研究活動であるため。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度にあたる 2009 年度も、本研究課題で年度ごとに設定されている研究諸活動を着実に継続させる予定である。なお、これまでの共同研究をつうじてとくに問題点として指摘されたのは、海外学術調査の超域的研究ネットワークの拡張と、フィールドサイエンスの将来をみすえた構築可能性の議論には、いずれも後継者養成の目的をあわせもった若手研究者の参画が必須であるということだった。そのため、最終年度では、近い将来に科学研究費研究課題の研究代表者になるなどして海外学術調査で主導的役割をになう可能性のある若手研究者の持続的研究ネットワーク構築に関する具体的方法をさらに探究する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① Fukuyama, S., Watanabe, C., Umezaki, M., and Ohtsuka, R. Twenty years' demographic change in sedentes and migrants of an international migrant-sending community in Tonga. *Journal of Biosocial Science*:41: 2009. 77-87, (有)
- ② Suwanrungruang, K., Sriamporn, S., Wiangnon, S., Rangsrikajee, D., Sookprasert, A., Thipsuntornsak, N., Satitvipawee, P., Poomphakwaen, K., and Tokudme, S. Lifestyle-related risk factors for stomach cancer in northeast Thailand. *Asian Pac. J. Cancer Prev.* 9: 2008. 71-75, (有)
- ③ Suto, Y., Saito, S., Osada, K., Takahashi, H., Motoyama, H. : Laboratory experiments and thermal calculations for the development of a next-generation glacier-ice exploration system: Development of an electro-thermal drilling device. *Polar Science*, 2: 2008. 5-26. (有)
- ④ Yasunari, T. Role of Land Atmosphere Interaction on Asian Monsoon Climate. *Journal of Meteorological Society of Japan* 85: 2007. 55-75 (有)
- ⑤ 真島一郎「ウフェ=ボワニの統治倫理に関する覚書」『統治者と国家—アフリカの個人支配再考』: 2007. 277-345 (有)

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 5 件)

- ① 佐藤洋一郎 監修、臨川書店、『ユーラシア農耕史』第1巻、2008年、274頁
- ② 佐藤洋一郎(単著)、京都大学学術出版会、『イネの歴史』、2008年、251頁
- ③ ed. Kazuo Ohtsuka and Dale F. Eickelman、Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, *Crossing Boundaries—Gender, the public, and the Private in Contemporary Muslim Societies.* 2008, 151P.
- ④ 梅崎昌裕、小峰書店、『ブタとサツマイモ：自然のなかに生きるしくみ』、2007年、119頁
- ⑤ 塩原朝子、ひつじ書房、「「バリ語の接頭辞 ma- —「終結点を持たない状況」を標示する接辞—」、『言語研究の射程』2006年 27-150頁

[その他]